

17. 垂水人形（鹿児島県伝統的工芸品指定）

文禄・慶長の役（1592～1598年）のときに、島津義弘が伴い帰った陶工たちが制作したのが、薩摩焼と土人形だったと言われています。垂水では、元禄（1688～1704）頃から作られていたと言われています。

江戸期にはもっぱら武士の内職として、娘、花嫁、福神、犬、猫、鯛などの人形が作られました。やがて垂水人形は冬場農家の副業になり、大正の初め頃には20件の制作者があり、1年に800個も作られたそうです。

垂水人形は、こねた粘土を型枠に入れて形をつくり、乾燥させたものを素焼きにして糊粉を塗り、その上に色付けした素朴な人形です。昭和10年（1935）頃からすたれ、一時制作は途絶えましたが、帖佐人形や残っている垂水人形の原型を参考に、中島信夫氏らによって平成元年（1989）に復活しました。

